

おもしろな和典文法①

1 歴史的仮名遣いの発音の仕方

- (1) 語中・語尾の八行音 (は・ひ・ふ・く・ほ) は (フ・イ・ウ・エ・オ) と発音する。
語頭の八行音はそのまま発音する。複合語の場合おのずから。
- (2) ㄱ行の「ぬ・ぬゑ・を」は、それぞれ「イ・エ・オ」と発音する。
- (3) 母音が連続するときは長音になる。
- (4) 母音に「ら」が続くとき、(1)と(3)の原則により長音になる。
- (5) 「む」「らむ」「けむ」「なむ」などの「む」は「ハ」と発音する。
- (6) 「ち・つ・くわ・ぐわ」は「シ・ズ・カ・カ」と発音する。
- (7) 促音の「っ」、拗音の「ゃ・ゅ・ょ」を小書きにしない。

2 ことばの単位

- (1) () ≡ まとまつた思想や感情や事象をいくつかの文で述べたもの。
一つもしくは複数の文よりなる。
- (2) () ≡ 句点(。)で切ることで表せる「続き」の表現。一つもしくは複数の文節よりなる。
- (3) () ≡ 文を音読するときに、不自然にならざるに、意味の節目として区切ることで表せる小さなまとまり。
- (4) () ≡ 文節をさらに区切ったことばの最小の単位。

○ 「文節」の区切り方

ことばの最後やことばとことばの間に自然に入る「ネ」という語を入れるとよい場合が多い。

例：今は(ネ) \ 昔(ネ) \ 竹取の(ネ) \ 翁と(ネ) \ くら(ネ) \ 者(ネ) \ ありけり。

○ 単語の種類

名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・感動詞 = ()

助動詞・助詞 = ()

単語の区切りの見当がつくと、辞書を引いて訳すことが出来る。